

作成年月日：2019年10月24日（Ver.1.0）

久留米大学では、他施設と共同で実施する下記研究のために、受診時に患者さんから取得された診療情報等を共同研究機関に提供しています。

なお、下記研究は久留米大学の倫理委員会にて「社会的に重要性が高い研究」等の特段の理由が認められ、研究機関長の承認を得て実施しています。当該診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡下さい。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

【研究課題名】 進行期悪性黒色腫に対する BRAF 阻害剤についての後ろ向き研究**【共同研究の研究代表機関及び研究代表者（情報の管理責任者）】**

研究代表機関（研究代表者）：東京都立駒込病院 皮膚科 部長 吉野公二

診療情報等の提供先：筑波大学 皮膚科 准教授 藤澤 康弘

【研究分担施設・研究責任者】

- ・別紙参照

【診療情報の対象者（研究対象者）】

- 1) 受診期間：2010年4月から2019年8月31日の間に受診
- 2) 受診科：久留米大学病院皮膚科および共同研究機関の各診療科
- 3) 対象疾患名：BRAF 遺伝子変異を有する進行期悪性黒色腫で BRAF 阻害剤・MEK 阻害剤併用療法を受けた方

【診療情報等の項目】

診療情報等：【診断名、病期、転移部位、年齢、治療、効果、転帰、副作用など】

授受の方法：郵送・宅配 電子的配信 直接手渡し その他（ ）**【研究目的】**

BRAF 遺伝子変異は欧米人に多く、アジア人では比較的少ないためアジア人における BRAF 阻害剤・MEK 阻害剤併用療法の効果についての知見は少ないのが現状です。そのため、効果と有害事象の関連を評価・解析することは治療後の予後予測や、次の治療の決定などにも影響を与える可能性がありますので詳しく調査し、今後の診療に役立てることが目的です。

【研究（利用）期間】 久留米大学倫理委員会承認後から2024年3月31日まで**【利益相反に関する事項】**

本研究は特定企業からの資金援助はないため利益相反は発生しません

【問い合わせ先】

（本学）研究責任者：久留米大学医学部皮膚科学講座 助教 武藤 一考

問い合わせ担当者：久留米大学医学部皮膚科学講座 助教 武藤 一考

電話：0942-31-7571（内線3728）

E-mail: mutou_itsukou@med.kurume-u.ac.jp

【共同研究施設・研究責任者】（続き）

共同研究施設：

1. 筑波大学 皮膚科 藤澤 康弘
2. 東北大学 皮膚科 藤村 卓
3. 自治医科大学 皮膚科 前川 武雄
4. 群馬大学 皮膚科 安田 正人
5. 国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科 山崎 直也・並川 健二郎
6. 日本医科大学 皮膚科 帆足 俊彦
7. 名古屋市立大学 皮膚科 加藤 裕史
8. 京都大学 皮膚科 大塚 篤司
9. 京都府立医科大学 皮膚科 浅井 純
10. 岐阜大学 皮膚科 松山 かな子
11. 三重大学 皮膚科 中井 康雄
12. 和歌山県立医科大学 皮膚科 山本 有紀
13. 九州大学 皮膚科 伊東 孝通
14. 九州がんセンター 皮膚科 内 博史
15. 鹿児島医療センター 皮膚腫瘍科・皮膚科 松下 茂人
16. 岡山大学 皮膚科 加持 達弥